

てんかん発作の動画の説明

発行：日本てんかん協会神奈川県支部
発行年月：2025年6月
※無断での複製、改編、転載を禁止します

左手と右手の動きの違いにご注目ください。

右手は膝の上に置いたまま、動きがありません。一方、左手は、はじめは口元を抑えています、髪をすいたり、服をいじったり様々な動きをします。これを一側性自動症と呼び、動いている側の大脳半球にてんかん発作を起こす焦点(病変)があることが多いことが知られています。

目はカメラを見つめています。これは、目が見えており、カメラを認識できていることを示しています。つまり、大脳の中で、ものを見る領域(後頭葉、視覚野)や眼球の動きを調節する領域などは機能していることを示しています。

一方、家族の会話には反応していないようです。このことは、言語理解ができていないのか、音を認識する脳が機能していないのかなど、側頭葉の機能不全が存在する可能性が考えられます。

右手はやはり動きが乏しいのですが、左手は髪をすいたりしています。髪をすく動作というのは、左手を動かし、正確に自分の頭部に移動させ、髪の毛に指をいれて適切な力で引っ張るという大変複雑な動きが要求されますが、大脳はその動きを調整できているということになります。

表情は一般的に無表情のことが多いです。

座っていることができていますが、これは体のバランスをとったり、足筋肉の緊張を維持したりすることができていることを示しています。

口を多少もぐもぐと動かしています。また、左手は服をいじりはじめました。これらはそれぞれ口部自動症、身振り自動症などと呼ばれる現象です。いずれもけいれんなどの単調な動きではなく、大変複雑でなめらかな自然な動きであることがわかります。

珍しいことですが、発作中に笑顔が見られております。

左手で鼻をぬぐう動作が見られております。これは発作後鼻ぬぐい現象といえます。おそらく、発作中には自律神経が活性化されていることにより、鼻粘膜の分泌が更新しているのでしょう。発作後にこれを手でぬぐいに行く方が多いのです。この時、動きやすい手を動かすため、発作の影響の少ない側の手を使う方が多いです。これは、発作を起こす焦点と同じ側の手となるため、鼻をぬぐった手の側にてんかんの焦点があることが多いことが知られています。

鼻をぬぐうあたりから右手も動きはじめます。これは、発作中は、右手は脳における発作の活動により動きが制限されていたものが、解放され、自由に動けるようになったものと考えられます。

これらのことから、脳の中での発作活動はこのあたりで終了したものと思われます。

この後は、首を動かしたり、目もあちこちを見たり、両手ともいろいろと動かしたりできるようになってきます。

しかし、おそらく発作後の脳の混乱状態は残っているため、ご本人はこのあたりは記憶にとどめていません。

また、発作後も口をぺちやぺちやさせる動きもあります。（発作後自動症）